

# 2-2

演題	介護ロボットの導入にあたって
副題	～見守りセンサーの導入事例～

介護 ICT 化
見守りセンサー

法人名	社会福祉法人 愛成会
施設名	特別養護老人ホーム愛成苑

発表者名 (職種)	山崎 有香 介護職員
共同発表者	木村 正和
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	横浜市瀬谷区瀬谷町 4131-16
TEL	045-300-0881
FAX	045-300-0883
メールアドレス	kinou_pc@aiseienn.jp
URL	<a href="http://www.aiseienn.jp/aiseien02/TOP/top.html">http://www.aiseienn.jp/aiseien02/TOP/top.html</a>

今回の発表施設 またはサービスの 概要	平成 21 年 9 月 1 日開所のユニット型特別養護老人ホーム。定員 100 名(うち短期入所 10 名)。平均要介護度は 4.0。「愛生相和」の理念のもと、家の離れの一部屋のように自由に伸び伸びと暮らしていただけるよう、サービスに努めています。
---------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 研究の目的、PR ポイント

愛成苑が介護を変えるという信念のもと、日々新しい取り組みを行っている。その一つとしての介護ロボット導入。利用者・職員双方にメリットのある活用方法を検討・検証を続けている。

## 取り組んだ課題

見守りセンサーに関しては、職員への巡回回数軽減などの業務改善だけでなく、利用者の眠りの質の確保にもつながる取組。

利用者の行動を把握することで、より質の高いサービスを提供することに注力した。

## 具体的な取り組み

起き上がりや離床のタイミングなどを知ることで、利用者の生活リズムを解析したり、医療への情報提供などへも役立てることができた。

また、転倒事故の多い利用者などの行動開始を把握することで、転倒防止などにも役立てている。

## 活動の成果と評価

導入後の職員へのアンケート調査などからも、その効果は実証されている。また、居室内での事故も減少している。

## 今後の課題

- ・ 導入コスト、維持コストの問題。
- ・ 見守りセンサーが過敏に反応することもあり、その察知段階や数値に苦慮する場面がある。
- ・ センサー感知が重なった場合など、どちらを優先すべきなのか？結果的に事故などなかったとしても、職員の心に新たなジレンマが発生している。